いわてまちの2030年

I-Valley

岩手町に根付く持続可能性の高い取り組みが
最先端のSDGsコンテンツとして体系化され、
それらを学ぶために様々な分野の人が訪れ、
実践の場に直接触れている。
そのような未来を描いています。

美しい100年の森を守る未来

伐採から販路までのワンストップサービスが確立され、
環境に配慮した持続可能な産業として価値が高まっている。
地産材を活用したものづくりが活発に行われている。

循環型/環境保全型農業の確立・高度化

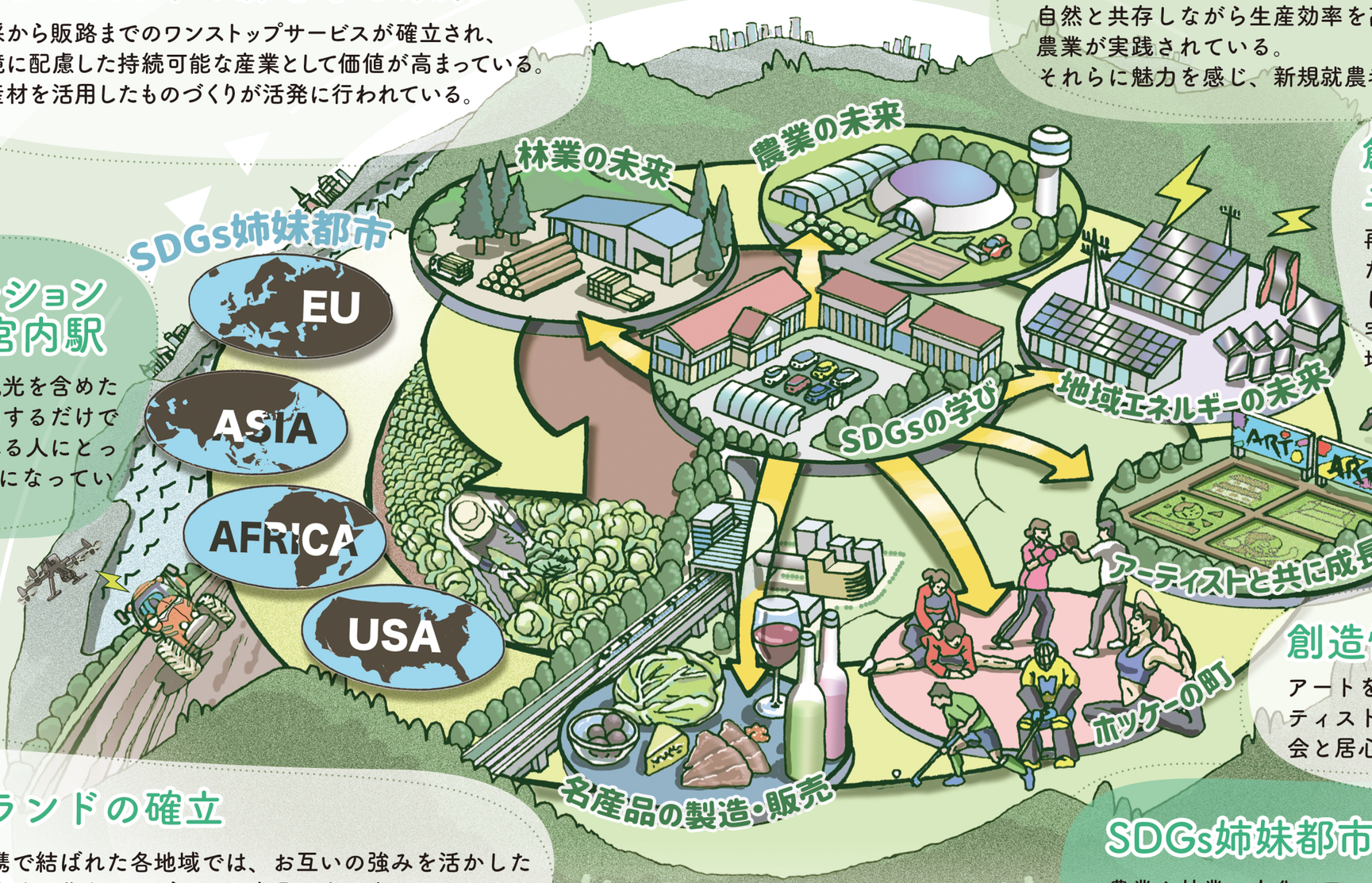
自然と共存しながら生産効率を高めるためのICTを活用した
農業が実践されている。
それらに魅力を感じ、新規就農者が移住してきている。

創エネ/省エネによるエネルギー循環の確立

再エネを含めたエネルギーシフトに向けた実験が行われ、断熱や地域特性を活かしたエネルギー創出などにより、一般住宅における光熱費の支出が周辺地域の平均と比べて最小となっている。

ハブステーション いわて沼宮内駅

ビジネス・産業観光を含めた様々な企業が訪問するだけでなく、観光に訪れる人にとってもハブ(結節点)になっている。



創造性が発揮される町

アートを活用した取り組みが多く行われ、アーティストにとってクリエイティブを発揮する機会と居心地の良い場が提供されている。

岩手町ブランドの確立

岩手町と広域連携で結ばれた各地域では、お互いの強みを活かした持続可能な生産方法で作られたブランド産品が生み出されている。
それらは首都圏を含めた多様な販路で販売されている。

SDGs姉妹都市

農業や林業、文化、アート、スポーツなど様々な分野でSDGsに取り組む世界と国内の各地域との経済を含めた交流が、民間主導の下で積極的に行われている。

※ここに記述されているプロジェクト以外にも多くのプロジェクトを町民の皆さんと共に進めていく予定です。